

第6学年 国語科 学習指導案

日時 令和5年11月24日（金）6校時
児童 6年生 12名
授業者 福田 はる香

- 1 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして日本文化を伝えるパンフレットをつくろう
教材名 「『鳥獣戯画』を読む」「調べた情報の使い方」「日本文化を発信しよう」
(光村図書 6年)

2 単元の目標

- (1) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。 [知識及び技能] (3) オ
(2) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) エ
(3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 教材について

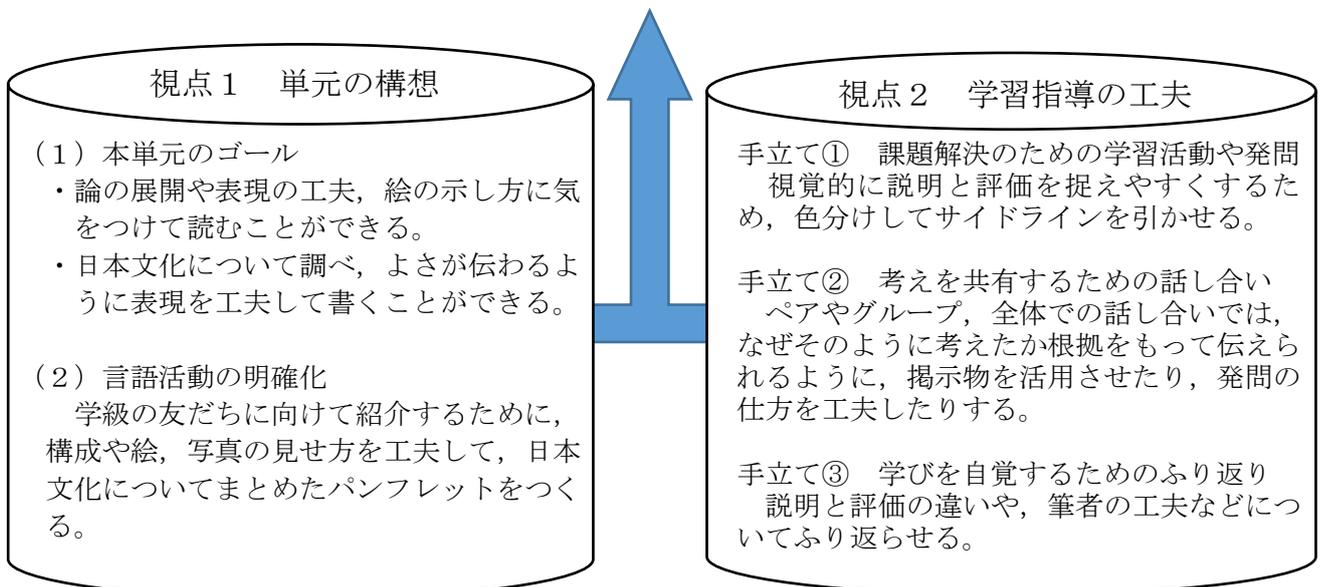
本単元は3つの教材からなる複合単元である。「『鳥獣戯画』を読む」では、筆者の考えと、資料や言葉の使い方といった表現の工夫を捉える。そこで学んだ表現の工夫を活用して、学校図書館等を利用して日本文化について調べ、調べたことをパンフレットにまとめる。

(2) 児童の実態について

5年生の説明文単元では、筆者は図や表などを用いることで、伝えたいことに説得力をもたせていることを学習し、図表を用いて自分の考えを書く活動を行った。本学級の児童は、文章と図表等の資料を結び付けて必要な情報を読み取ることが苦手である。自分の伝えたいことが読者に伝わるように、文章構成や展開について考えたり、図表やグラフなどを効果的に用いたりさせたい。

(3) 指導の工夫（研究に関わって）

「読む力」…文章を正確に読み、叙述に即して内容を正確に理解し、読み取ったことをもとに自分の考えを広げる力



4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(3)オ	① 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 B(1)エ ② 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 C(1)ウ	・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、今までの学習を想起してパンフレットを作ろうとしている。

5 学習指導計画(12時間)

学習過程	時	主な学習活動	評価規準
見通し	1	○『『鳥獣戯画』を読む』の表現の工夫をいかして、日本文化について調べて分かったことを書きまとめる学習の見通しをもつ。	
	2	○文章の構成を捉える。 ○筆者の主張を捉える。	
構造と内容の把握	3	○絵と文章を照らし合わせながら、筆者の絵についての説明や評価を読み取る。	【思②】 筆者が絵の描き方についてどんな説明や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができているか確認する。 [ワークシート]
	4(本時)	○絵と文章を照らし合わせながら、筆者の絵についての説明や評価を読み取る。	
	5	○絵と文章を照らし合わせながら、筆者の絵巻物についての説明や評価を読み取る。	
精査・解釈	6	○筆者の「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方の工夫」について気づいたことを書き出す。	
考えの形成と共有	7	○「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深める。 ○学校図書館で日本文化についての本を探し、表現の工夫に着目して読む。	【思①】 パンフレットをつくるときに、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 [パンフレット]
	8	○グループで発信する日本文化を決め、パンフレットづくりの構想を練る。 ○必要に応じて詳しく調べる。	【態】 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、パンフレットを作ろうとしている。 [観察・パンフレット]
	9	○パンフレットの構成を決め、役割分担をする。 ○割付を決め、下書きを書く。	
	10	○下書きを書く。	
	11	○パンフレットを完成させる。	【知】 パンフレットをつくるときに複数の本を使って調べたことが、自分の考えを広げることに役立つと気付いている。 [ふり返し]
	12	○それぞれのパンフレットに対する感想を伝え合い、単元のふり返しを書く。	

6 本時の指導 (4/12)

(1) 目標

筆者が絵の描き方についてどんな説明や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。

(2) 評価規準

絵と対応している部分が説明、筆者の思いが表された部分が評価だと理解し、書くことができる。

ねらいを達成している児童の姿・見取りのポイント	ねらいを達成していない児童への支援
説明と評価の違いを考えて書いている。 ・説明…絵の説明をしているところ ・評価…筆者が絵をほめているところ のような記述がある。	前時の学習内容や本文を手掛かりに、絵と文章が対応している部分を一緒に探すなど、個別支援をする。

(3) 展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (8分)	1 前時の学習を想起する。	・前時では絵の「説明」と筆者の「評価」を読み取ったことを確認する。
	2 本時の学習課題を確認する。 ㉞ 絵と文章を照らし合わせながら、筆者の説明や評価を読み取ろう。	
	3 課題解決の見通しを持つ。 ○学習方法を確認する。	・絵に描かれた様子を説明している文に赤線を引かせる。その文と対応する絵の部分を赤で囲ませ、線で結ばせる。 ・絵に対する筆者の評価が表れている文に青線を引かせる。 ・前時に行った以上の方法を再確認し、本時も同様に学習を進めていくことを知らせる。
展開 (29分)	4 課題を解決する。 ○絵の説明を読み取る。 ○筆者の評価を読み取る。 ○筆者が特に絵を評価している部分を読み取る。	・導入で確認した方法で、各自作業を進めさせる。(手立て①) ・説明を見つけたら、線を引いた文や、絵の囲んだ部分をペアで交流させる。その後全体で確認する。その際、なぜその部分を説明だと思ったのか考えさせる。(手立て②) ・説明のときと同様にグループ交流し、全体で確認する。 ・「見事に」、「たいしたものだ」など、筆者が絵をほめている言葉を読み取らせる。
	5 学習の確かめをする。 ○「説明」、「評価」とは、どのようなところなのか考えさせる。 ○全体で確認する。 説明…絵と文が対応しているところ 評価…筆者の思っていることが表されたところ	

	6 次時に向けて ○筆者が説明と評価のどちらも書いているのはなぜか考える。	・「評価だけ書いていたら読者はどう思うか」「説明だけだったら」などと発問し、考えさせる。どちらも書いているのは筆者の主張をより分かりやすく読者に伝えるための工夫であるため、出された考えを次時の導入等でいかす。
終末 (8分)	7 本時の学習を振り返る。 8 次時の学習を確認する。	・今日の学習について、「わがともよ」の視点で振り返りを書かせる。(手立て③) ・次時は「絵巻物」についても同様に読み取っていくことを確認する。

(4) 板書計画

○説明…絵と文が対応しているところ

○評価…筆者の思っていることが表されたところ

絵

見事に
たいしたものだ

『鳥獣戯画』を読む

① 絵の様子を説明した文に赤線 絵の部分を赤で囲む

② 筆者の評価が表れている文に青線

③ 絵をほめているところを青で囲む

7 考察

【成果】

- ・本文の言葉を読んだり、絵と文を照らし合わせたりすることで、説明や評価を探していたこと。
- ・ふり返りの視点を学校でそろえていることがよかった。
- ・パンフレットをつくる時に、評価を入れることを意識していた。

【課題】

- ・「評価はほめているところだけではない」というおさえをするのがよい。
- ・作業や交流に時間がかかってしまった。